

森林研修所ニュース

平成29年4月
No. 80

ユキヤナギ（森林技術総合研修所敷地にて撮影）

平成29年度 研修実施計画の概要紹介

森林技術総合研修所では、林業の成長産業化を実現するため、国産材の安定供給体制の構築、森林資源の再造成の確保及び森林の公益的機能の維持増進を一体的に図る必要があることから、これらの施策の推進に必要な知識・技術を備えた技術者を育成する目的で研修を実施しています。

平成29年度に行う83コースの概要を、本ニュースの1～4ページでご紹介します。

83コースの内訳は、集合研修81コース（東京都八王子市にある本所で62コース、群馬県沼田市にある林業機械化センターで19コース）と、通信研修2コース（森林活用、治山・林道）です。

皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

なお、各都道府県における林業大学校や森林・林業関係の高等学校の教育・実習内容を充実するため、各研修コースへの教職員の方の受講についても対応しますので、ご相談下さい。

平成28年度に行った研修からの主な変更点は、以下のとおりです。

1. 研修の新設

新たな行政ニーズ等に応じ、以下のような研修を新設（全14研修）。

（1）本所（八王子市高尾）

- ・市町村森林整備計画の作成や実行監理等が適切に実施できる森林総合監理士の育成に向けた、「森林総合監理士育成研修（前期3回（本所で実施）、後期4回（関東、北海道、九州の各森林管理局で実施）」
- ・林地台帳や施業集約化等に関する知識・技術の習得による、市町村の森林・林業施策の推進ができる者の育成に向けた、「市町村林務担当者（応用）研修」
- ・無人航空機（ドローン）を適切に活用できる技術者の育成に向けた、「無人航空機活用技術研修」
- ・地域の森林・林業行政に貢献できる職員（林野庁職員対象）の育成に向けた、「行政能力向上（前期）研修」等

（2）林業機械化センター（沼田市根利）

- ・安全な搬出間伐等の推進に向けた、「チェーンソー伐木造材技術（上級）研修」
- ・安全かつ効率的な高性能林業機械作業の推進に向けた、「高性能林業機械（女性担当者）研修」及び「高性能林業機械（林業大学校指導者）研修」

2. 研修の統合

講義内容の重複を解消するとともに、より効果的な研修の実施に向け、「森林総合監理士フォローアップ（目標林型と森林施業）研修」と「森林施業技術研修」等、5組の研修を統合。

3. 計画日数の変更

研修内容の充実化・効率化に向け、10コースの研修について日数の調整（「高性能林業機械（基礎）1～3研修」、「山村活性化研修」等）を実施。



平成29年度 研修実施計画



1. 国産材の安定供給体制の構築の推進に必要な知識及び技術の習得

記番	研修の名称	主な内容	対象者	定員(各)	実施時期	備考
1	木材産業・木材利用(基礎知識)	○木材産業・木材利用の現状と課題○木材の生産・加工・流通の基礎知識○木造建築・住宅資材の基礎知識	地方公共団体職員、森林管理局職員等(初任者レベルの者)	35	12/11~12/15	※1
2	木材産業・木材利用(実践)	○木材産業・木材利用の現状と課題○木材の流通・加工○住宅資材、技術開発○大規模木造建築	地方公共団体職員、森林管理局職員(初任者レベルの者を除く。)、森林総合監理士等	35	1/15~1/19	
3	木材産業・木材利用(先進事例学習)	○木材の流通・加工に関する動向○木材のカスケード利用○木材市場、CLT工場○バイオマス発電施設	地方公共団体職員、森林管理局職員、森林総合監理士等	28	11/13~11/17	岡山県※2
4	木質バイオマスのエネルギー利用	○最新の木質バイオマスのエネルギー利用の現状と課題○海外で普及定着している木質バイオマスのエネルギー利用○国内での先進的な取組事例(供給体制を含む。) ○エネルギーによる木材の地産地消に向けた取組方策の検討	地方公共団体職員、森林管理局職員、森林総合監理士等	30	2/21~2/23	山梨県※2
5	公共建築物等木材利用促進(発注者)	○建築基準法の解説・木造技術の最近の動き○中大規模木造のための木質系材料の知識○木造建築物の法的手続き等	地方公共団体職員等公共建築物等の発注等に関わる者	40	9/26~9/29	
6	公共建築物等木材利用促進(構造設計)	○建築基準法の解説・木造技術の最近の動き○中大規模木造のための木質系材料の知識○木造建築物の構造計算	地方公共団体職員等公共建築物等の構造設計に関わる者	40	7/10~7/14	
7	木材輸出戦略	○木材輸出を巡る最近の情勢○輸出国先の規格・規制、商慣行○木材輸出事例の分析○製品等の付加価値を高めた輸出促進の戦略の検討	地方公共団体職員、森林管理局職員等	30	10/31~11/2	
8	チェーンソー伐木造材技術(初級)	○伐木等(安衛則第36条第8号)労働安全衛生特別教育○防護用品の必要性○ISO規格による振動管理	地方公共団体職員	15	6/19~6/23	機械化C※3
9	チェーンソー伐木造材技術(上級)	○チェーンソーを用いて行う伐木等の業務従事者安全衛生教育○振動障害の実態と医療○伐木造材作業における災害の現状と対策	地方公共団体職員(特別教育修了者)	15	11/28~12/1	機械化C
10	チェーンソー・刈払機	○伐木等(安衛則第36条第8号の2)労働安全衛生特別教育○刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育○防護用品の必要性	※4 森林管理局職員(採用後5年以上の者)	15	5/29~6/2	機械化C
11	高性能林業機械(女性担当者)	○車両系高性能林業機械の特性とデモ○架線系高性能林業機械の特性とデモ○高性能林業機械作業システムの特徴	地方公共団体職員(初任担当職員、林道事業担当者及び市町村森林整備計画担当者を含む。)、森林管理局等の女性職員	10	8/7~8/9	機械化C
12	高性能林業機械(基礎)1・2・3	○高性能林業機械の特性と操作方法	地方公共団体職員(初任担当職員、林道事業担当者及び市町村森林整備計画担当者を含む。)、森林管理局職員(採用後5年以上の者等)、森林総合監理士等	10	①9/11~9/15 ②10/2~10/6 ③11/13~11/17	機械化C
○架線系高性能林業機械の安全な作業方法						
○車両系高性能林業機械の安全な作業方法						
14	○高性能林業機械を使用した安全かつ効率的な作業方法					
15	高性能林業機械(林業大学校指導者)	○高性能林業機械の特性と操作方法○架線系高性能林業機械の安全な作業方法及び指導のポイント○車両系高性能林業機械の安全な作業方法及び指導のポイント○森林整備に資する高性能林業機械作業システム実践	林業大学校等指導者	10	7/10~7/14	機械化C
16	高性能林業機械(安全指導・前期)1・2	○車両系木材伐出機械等の運転の業務に係る安全衛生特別教育(学科・実技)	地方公共団体職員(業務経験年数が5年以上であって車両系木材伐出機械等の特別教育の講師等に将来なり得る者)、森林管理局職員(森林官級以上の者で「高性能林業機械(安全指導・後期)研修」の受講予定者に限る。)	10	①9/25~9/29 ②10/23~10/27	機械化C
17						
18	高性能林業機械(安全指導・後期)1・2	○車両系木材伐出機械等の運転の業務に係る安全衛生特別教育(学科) ○車両系木材伐出機械等の法整備の背景・経緯	地方公共団体職員(業務経験年数が5年以上であって車両系木材伐出機械等の特別教育の講師等に将来なり得る者)、森林管理局職員(森林官級以上の者で「高性能林業機械(安全指導・前期)研修」の修了者に限る。)	10	①1/15~1/16 ②1/22~1/23	機械化C
19						
20	高性能林業機械作業システム(生産性)	○生産性把握に必要な基礎知識○生産性の把握と算出○算出したデータの検討・検証○他種類の生産性把握法と作業の評価	地方公共団体職員、森林管理局職員(資源活用担当者)	10	11/6~11/10	機械化C
21	高性能林業機械作業システム(実践)	○高性能林業機械作業システムの構築と高性能林業機械の安全な操作方法 ○森林整備に寄与する森林作業道作設事例 ○高性能林業機械作業システム実践 ○機械操作の習熟性について	地方公共団体職員及び森林管理局職員(首席森林官と同等レベルの者)並びに民間事業者職員	10	8/28~9/1	機械化C
22	林業機械体験	○チェーンソーの体験学習 ○高性能林業機械の体験学習	大学生(林業関係学会会員)等	20	9/5~9/8	機械化C
23	集材架線	○機械集材装置運転業務安全衛生特別教育 ○エンドレスタイラー式の架設・撤去作業の実践 ○集材架線の設計	地方公共団体職員、森林管理局職員(採用後5年以上の者)、森林総合監理士等(「林業架線作業主任者免許」取得者及び「機械集材装置運転業務安全衛生特別教育」修了者を除く。)	15	6/6~6/16	機械化C
24	林道技術者育成1・2・3	○林道(林業専用道を含む。)の設計に関する知識・技術の概要	地方公共団体職員(業務担当経験年数がおおむね3年以下の者)、森林管理局職員等(通信研修(治山・林道)を修了した者等及び初任の森林管理署治山・土木担当者等)	20	①6/20~6/30 ②9/5~9/15 ③10/10~10/20	山梨県
25		○林道を設計するための基本的な現場実務林道工事の監督業務や林道の維持管理に関する知識				
26		○施設災害復旧に関する知識・技術の概要 ○林道施設の点検・診断手法の概要 ○事業評価制度の概要				
27	林業専用道技術者1・2	○林業専用道の路網計画、作設事例	地方公共団体職員、森林管理局職員(初任者レベルの者を除く。)、森林総合監理士等	25	①5/15~5/19 ②7/24~7/28	山梨県
28		○林業専用道作設後の技術的課題 ○路網計画に関する現地検討				
29	森林作業道(基礎技術)	○車両系建設機械(整地・運搬・積込み用及び掘削用)技能講習 ○森林作業道の作設に必要な基礎技術 ○森林作業道に関する試験研究成果	地方公共団体職員(初任者レベルの者)	10	7/24~8/4	機械化C

記番	研修の名称	主な内容	対象者	定員(各)	実施時期	備考
30	森林作業道(作設指導)	○森林作業道作設事例 ○森林作業道作設指導のポイント ○作設箇所の検討・検証	地方公共団体職員(「車両系建設機械(整地・運搬・積込み用及び掘削用)技能講習」修了者相当レベル)、森林管理局職員(業務経験年数が5年以上の者)等	15	7/3~7/7	機械化C
31	森林作業道(改修技術)	○森林作業道改修のポイントと改修事例 ○森林作業道改修実践 ○改修箇所の評価	地方公共団体職員(「車両系建設機械(整地・運搬・積込み用及び掘削用)技能講習」修了者相当レベル)、森林管理局職員(首席森林官と同レベルであって業務経験がある者)等	10	10/16~10/20	機械化C
32	森林作業道作設指導者・監督者	○森林作業道の作設方法及び施工管理 ○路体構造調査○作設路線の評価	地方公共団体職員、森林管理局職員、森林総合監理士等	30	6/26~6/30	山梨県

2. 森林資源の再造成の確保の推進に必要な知識及び技術の習得

記番	研修の名称	主な内容	対象者	定員(各)	実施時期	備考
33	森林調査	○森林調査の最新技術 ○森林調査と空中写真判読	地方公共団体職員、森林管理局職員等(業務経験年数がおおむね3年以下の者)	25	10/16~10/20	山梨県
34	森林施業技術	○森林の多面的機能発揮のための森林施業 ○低コストな森林施業の最新の知識及び技術 ○公益的機能に配慮した森林施業の取組	地方公共団体職員、森林管理局職員、森林総合監理士等	25	8/21~8/25	
35	森林保護管理(病虫害)	○森林保護行政の現状と課題 ○森林病虫害の現状と防除対策	地方公共団体職員、森林管理局職員等	32	7/18~7/21	
36	森林保護管理(獣害)	○森林保護行政の現状と課題○鳥獣管理を巡る情勢 ○野生鳥獣の保護管理と森林施業○鹿の痕跡と被害 ○くくりわな製作とわな設置・捕獲実習等 ○シカ肉等の有効活用事例	地方公共団体職員、森林管理局職員、森林総合監理士等	24	11/6~11/10	
37	森林整備事業	○森林整備事業の概要○森林整備の新たな取組 ○施業集約化の取組○効率的な作業システムの構築 ○継続的に利用できる路網整備	地方公共団体職員、森林管理局職員、森林総合監理士等	35	10/23~10/27	
38	森林立地	○土壌の生成、分類○指標植物 ○土壌の調査手法○環境要因と成立する森林の関係 ○立地環境と造林、森林管理の関係	地方公共団体及び森林管理局の造林担当職員(指導者レベルの者)、森林総合監理士等	20	7/31~8/4	山梨県

3. 森林の公益的機能の維持増進及び山村の活性化の推進に必要な知識及び技術の習得

記番	研修の名称	主な内容	対象者	定員(各)	実施時期	備考
39 40	治山(基礎知識・施設計画)1・2	○治山事業の概要○事業評価制度(費用対効果分析)の概要 ○治山事業の実務 ○工法、調査・計画・設計、点検、診断、コンクリート、自然現象の基本的見方と調査方法(総合演習)	地方公共団体職員(業務経験年数がおおむね3年以下の者)、森林管理局職員等(業務経験年数がおおむね3年以下の者、又は通信研修(治山・林道)を修了した森林官等及び初任の森林管理署等治山・林道担当者)	30	①5/30~6/9 ②7/25~8/4	山梨県
41 42	治山(調査・測量・設計)1・2	○治山事業の概要 ○治山調査・測量・設計の実践 ○災害復旧	地方公共団体職員、森林管理局職員等(業務経験年数がおおむね2年以上5年以下の者で、治山(基礎知識・施設計画)研修を修了した者、あるいは治山(基礎知識・施設計画)研修修了者と同等の知識を有する者)	27	①8/28~9/8 ②9/25~10/6	
43	治山(地すべり)	○治山(地すべり関連)の先進的知識・技術○地すべり防止事業を取り巻く新たな動き○地すべり防止技術向上のための専門的個別技術○調査、計画、設計等の実務の習得	地方公共団体職員、森林管理局職員等(業務担当経験年数がおおむね3年以上の者)	30	11/6~11/10	
44 45 46	保安林及び林地開発許可1・2・3	○保安林制度について○保安林管理の実務 ○保安林解除の実務○林地開発許可について	地方公共団体職員、森林管理局職員等(初任者レベルの者)	40	①6/12~6/16 ②8/21~8/25 ③12/4~12/8	
47	生物多様性保全	○生物多様性をめぐる動き○森林生態系と生物多様性 ○生物の多様性を豊かにする森林管理 ○生物多様性保全の評価	地方公共団体職員(生物多様性保全の業務に携わる者)、森林管理局職員(生態系管理指導官、森林施業調整官等)、森林総合監理士等	20	11/13~11/17	山梨県
48	森林環境教育	○森林環境教育の現状 ○森林環境教育等の課題と推進方策 ○森林環境教育等の企画と実践	地方公共団体職員、森林管理局職員等(実際に森林環境教育等の業務に携わっている者)	25	9/19~9/22	
49	特用林産	○特用林産物に関する知識、生産技術○安全な特用林産物の供給○特用林産物を活用した地域振興の取組(現地実習を含む。)	地方公共団体職員等	20	12/4~12/8	山梨県
50	山村活性化	○山村と都市や企業等の連携 ○地域資源を活用した地域づくり○企画立案実習	地方公共団体職員、森林管理局職員等	20	1/31~2/2	山梨県

4. 森林・林業行政に携わる者等として必要な知識及び技術の習得

記番	研修の名称	主な内容	対象者	定員(各)	実施時期	備考
51	森林計画(初級)	○森林計画制度の体系○各種森林計画の概要と意義及びその運用○森林計画作成(ゾーニング)演習	地方公共団体職員、森林管理局職員等(業務担当経験年数がおおむね3年以下の者)	35	6/19~6/23	
52	森林計画(中級)	○森林の誘導の考え方、森林の区分の設定、伐採立木材積の算出といった計画策定に必要な具体的な計算等の手法 ○森林情報の取扱いの基本、不動産登記簿・地図データの活用方法、森林GISの活用方法、森林情報高度利用の考え方などIT技術の活用方法 など	地方公共団体職員及び森林管理局職員等(業務担当経験年数がおおむね2年以上の者、森林計画(初級)研修修了者あるいは同研修修了者と同等の知識を有する者)	30	11/27~12/1	
53	市町村林務担当者(基礎)	○市町村担当者に必要な森林・林業の基礎知識 ○国及び都道府県における森林・林業再生に向けた施策の概要 ○森林総合監理士の役割と地域との関わり ○森林・林業の構想としての市町村森林整備計画の意義	市町村林務担当職員	30	6/12~6/16	
54	市町村林務担当者(応用)	○林地台帳制度○森林境界明確化 ○施業の集約化○森林経営計画の策定	市町村林務担当職員及び林業技士等地域における市町村林務行政のアドバイザーとなり得る者	50	7/3~7/7	
55 56 57	森林総合監理士育成(前期)1・2・3	○林業・木材産業の現状○森林施業の方法 ○森林計画制度○路網整備○作業システム ○コミュニケーションとプレゼンテーション演習	地方公共団体職員、森林管理局職員、林業事業体職員等(森林総合監理士育成(後期)を受講予定の者)	40	①5/8~5/12 ②5/22~5/26 ③6/5~6/9	

記番	研修の名称	主な内容	対象者	定員(各)	実施時期	備考
58 59 60 61	森林総合監理士育成(後期)1・2・3・4	○森林施業の方法○森林施業演習 ○路網、伐採計画の作成演習 ○コミュニケーションとプレゼンテーション演習	地方公共団体職員、森林管理局職員、林業事業者職員等(森林総合監理士育成(前期)を受講した者)	33	①7/11~7/14 ②8/29~9/1 ③9/12~9/15 ④10/3~10/6	①関東局※3 ②関東局※5 ③北海道局※5 ④九州局※5
62	持続可能な森林経営のための政策立案能力の強化	○持続可能な森林経営の概論 ○持続可能な森林経営の基準指標○参加型森林経営手法 ○森林資源モニタリング手法○国家森林計画の立案手法 ○行動計画書に基づいた提案書の作成○取りまとめと評価	海外の中央政府及び地方自治体の森林経営・保全担当部署の行政官	15	8/21~10/20	
63	総合職新採用	○訓練及び講話○森林・林業・木材産業の現状 ○現場実務に必要な技術 等	平成29年度国家公務員総合職採用職員	17	4/24~4/28	
64	一般職(大卒程度)新採用	○林野庁職員としての心構え○森林・林業・木材産業の現状 ○公務員としての規範	平成29年度国家公務員一般職(大卒程度)採用職員	69	4/11~4/14	
65	一般職(高卒者)新採用	○林野庁職員としての心構え○森林・林業・木材産業の現状 ○公務員としての規範	平成29年度国家公務員一般職(高卒者)採用職員	31	4/18~4/21	
66	研修企画運営実務(基礎)	○研修企画に必要なスキル ○研修の運営 ○研修評価・改善の実務	地方公共団体職員、林野庁(森林技術総合研修所を含む。)及び森林管理局の研修実務担当者・人材育成担当者	24	2/6~2/9	
67	研修企画運営実務(先進事例学習)	○林業大学校等の企画運営 ○技術者育成の教育企画運営手法 ○学生募集・就職等学生指導実務	地方公共団体職員、林野庁(森林技術総合研修所を含む。)及び森林管理局の研修実務担当者・人材育成担当者	50	9/25~9/29	岐阜県※2
68	無人航空機活用技術	○ドローンの操作方法○ドローンの関係法令 ○ドローンに係る基礎知識○ドローンの活用例	地方公共団体職員、森林管理局職員等	20	10/30~11/2	

5. 国有林野事業職員の能力向上に資する知識及び技術の習得

記番	研修の名称	主な内容	対象者	定員(各)	実施時期	備考
69	署長	○国有林野事業の経営環境 ○組織運営能力の向上○人材の育成	森林管理署長の職(これと同等と認められる職を含む。)に初めて任用された職員	20	5/16~5/19	
70	総括官等技術	○これからの主伐、再造林施業○森林・林業・木材産業の現状と課題○森林施業技術とシカ被害対策○業務の適切かつ円滑な実施○森林作業道などの評価、検証	総括森林整備官・地域統括森林官を中心に、森林管理署等において技術指導を行う者	35	5/29~6/2	山梨県
71	発注者網紀保持	○入札制度、談合、経済法等 ○地省庁や地方公共団体における先進的取組事例研究 ○リスク管理とコンプライアンス	森林管理局署契約発注担当職員等(業務経験年数がおおむね2年以下の者)	28	1/17~1/19	
72	健康安全管理	○健康安全管理体制の強化 ○健康管理指導能力の向上 ○安全管理指導能力の向上	森林管理局の安全衛生係長、局・署の健康・安全衛生管理担当者等、健康及び安全管理に関する実務的指導の担当職員(業務経験年数がおおむね2年以下の者)	21	7/18~7/21	
73	木材安定供給(販売)	○政策としての販売・生産事業 ○木材産業の現状と課題○木材の流通と販売 ○国有林材における安定供給の取組	森林管理署等の収穫・生産・販売担当職員(業務経験年数がおおむね2年以下の者)	20	5/22~5/26	
74	木材安定供給(生産)	○森林作業道作設方法等の実習 ○現地に応じた作業システムの選定及び実践	森林管理署等の収穫・生産・販売担当職員(業務担当経験年数がおおむね2年以下の者)	20	10/23~10/27	
75	情報処理(刷新システム等技術者養成)	○国有林野情報管理システムの運用管理 ○国有林野情報管理システムの操作 ○情報セキュリティ	森林管理局の情報処理担当職員等	14	4/26~4/28	
76	情報処理(森林GIS技術者養成)	○国有林GISの概要と基本操作 ○国有林GISの新機能と業務への活用	森林管理局のGIS担当職員等(業務担当経験年数がおおむね2年以下の者)	14	2/14~2/16	
77	流域管理・民国連携推進	○民有林施業の概要○国有林における民国連携の取組 ○生物多様性保全に配慮した管理経営及び森林被害対策 ○木材産業施策の課題と今後の展開方向	森林管理署職員(地域林政調整官、森林技術指導官等)	14	1/22~1/26	
78	地域対応力向上	○効果的な情報の発信○地域の声を引き出し、把握する ○地方行政の現状と課題○合意形成の技術 ○具体的な業務を想定した演習○コミュニケーション能力の向上	森林管理局署職員等の地域関係者との窓口となる者(地域林政調整官、森林技術指導官、地域統括森林官、首席森林官、森林官等)	20	2/6~2/9	
79	行政能力向上(前期)	○森林・林業施策の動向 ○森林・林業行政における国有林の役割 ○コミュニケーション、プレゼンテーション演習○企画力演習	林野庁、森林管理局署職員等(森林官等の役付となるまでの期間において、林野庁本庁や現配置局と異なる局等での勤務を経験するよう計画的に人事配置された者)	20	5/8~5/12	
80	国有林野の活用実務	○国有林野管理処分業務の概要及び実務○国有林野の鑑定業務の実務等○国有林野の利活用業務の実務	森林管理局職員(鑑定官、計画処分及び貸付担当職員等)	25	11/27~12/1	
81	GNSS測量等技術者養成(人工衛星による測量)	○GNSS測量技術の現状と課題 ○GNSS測量における基礎知識 ○GNSS測量の実習・演習	森林管理局の測定業務担当者等(業務経験年数がおおむね2年以下の者)	20	12/12~12/15	
82	通信研修(森林活用)	○国有財産制度、国有林野管理に関する基礎知識 ○分収林制度に関する基礎知識○国有林野等貸付・使用等に関する基礎知識○森林空間総合利用に関する基礎知識 ○林野・土地の利活用に関する基礎知識	森林管理署職員等	40	6/1~2/28	
83	通信研修(治山・林道)	○治山に関する基礎知識○林道に関する基礎知識 ○土質に関する基礎知識○測量に関する基礎知識 ○水理に関する基礎知識	森林管理署職員等	50	6/1~2/28	

※1 備考欄が空欄の研修は森林技術総合研修所で実施する研修。

※2 備考欄に県名を記載した研修は、政府関係機関移転基本方針(平成28年3月22日まち・ひと・しごと創生本部決定)を踏まえ、山梨、岐阜、岡山の各県内で現地実習等を実施する研修(山梨県については、従前からの継続分等も含む)。

※3 「機械化」と記載した研修は、群馬県沼田市にある林業機械化センターで実施する研修。

※4 対象者欄に緑色の網掛けをした研修は、林野庁職員のみを対象とした研修。

※5 「北海道局」、「関東局」、「九州局」と記載した研修は、それぞれ、北海道森林管理局、関東森林管理局、九州森林管理局の管内で実施する研修。

■研修の詳細を記載した研修実施計画は、森林技術総合研修所のHPに掲載しています。 <http://www.rinya.maff.go.jp/j/kensyuu/kensyu.html>



研修紹介

1

研修企画運営実務（先進事例学習）研修

期 間：2016年12月12日（月）～16日（金）

受講者：29名（うち国有林野事業職員9名）



教務指導官 松下 英之

本研修は政府による地方創生*の一環として岐阜県で実施したもので、美濃市にある岐阜県立森林文化アカデミーで、人材育成の全国先進事例を学習することで実践的な知識や実務を習得することを目的として、林業大学校等の関係者や人材育成の担当者が参加し実施しました。

【人材育成方針】

研修初日は、林野庁の川村森林・林業技術者育成対策官から「林野庁における人材育成の方針」、岐阜県田中森林経営対策監から「岐阜県における人材育成の取組」についての講義を行いました。

【林業大学校としての企画・運営】

2日目は、森林文化アカデミーの川尻副学長からアカデミーの設立経緯や運営方針、アカデミーの特色について講義を頂きました。午後からは、陣出教務課長によるアカデミーにおける大学校としての林業技術者育成に向けた教育の具体的な企画運営や課題等について講義を行いました。



伝統工芸（和傘）の技術継承への支援例

【専門教育・地域との連携】

3日目は、アカデミーの特色の一つでもある木造建築技術者や林業技術の教育に係る専門教育（短期研修）の企画運営に係る講義を行いました。また、県内の市町村との連携の事例として、木造の道の駅の建築に関する木工芸製品開発等に係る支援、里山の整備や資源の活用に係る支援などについての講義を行いました。

【授業見学】

4日目は、森林文化アカデミーが行っている作業道作設実習、森林GIS実習、木育実習の3講座の中から、研修生が希望する授業を見学しました。特に、木育実習ではアカデミーの学生が先生役、研修生が生徒役となり、木工品の制作を行うといった研修生参加型のユニークな授業となりました。

森林文化アカデミーの授業（木育実習）
学生が先生になり、研修生は指導される側を体感

【グループ討議】

最終日には、研修生が林業大学校等担当のグループと研修担当のグループに分かれてそれぞれ、大学校等の企画運営や職場研修に係る現状や課題などについて意見交換を行うとともに、課題の解決に向けた検討が行われました。議論が熱を帯び、研修時間を超過しそうになったほどでした。

今回の研修の実施に当たり、準備段階から実施に至るまで、岐阜県、岐阜県立森林文化アカデミー及び美濃市の皆様方に多大なるご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。



討議の発表を通じ、課題を議論

* 平成28年3月22日に、内閣府のまち・ひと・しごと創生本部で「政府関係機関移転基本方針」が決定され、森林技術総合研修所で実施している研修の一部について、平成28年度から山梨県、岐阜県、岡山県で実施することとなりました。

研修紹介

2

木材産業・木材利用（先進事例学習）研修

期 間：2017年2月20日（月）～24日（金）

受講者：20名（うち国有林野事業職員5名）



教務指導官 小倉 和幸

本研修は、政府による地方創生※の一環として岡山県で実施したもので、木材産業・木材利用の研修を林業・木材産業の盛んな真庭市において、「木材産業の振興と木材利用の実需拡大を図るため、CLT（直交集成板）、バイオマス発電等について、全国先進事例に関する講義や現地見学を通じて知見を習得させ、地域の木材産業等に係る課題を解決できる者を育成する」ことを目的に本年度から実施することとなりました。



真庭木質バイオマス発電所の視察

研修初日は、遠方からのアクセスを考慮して、16時30分からの開講式のみとしました。

研修2日目は、真庭市の太田市長、銘建工業(株)の中島社長などの講師から、真庭市での木質バイオマス発電関係やCLT関係の講話を聞き、木質バイオマス発電事業の現地視察を行いました。

3日目は、真庭市におけるバイオマスによる地域づくりの実例として、真庭バイオマスラボでセルロースナノファイバーを活用したプラスチック原料開発の様子、市役所の施設では木造公共施設やバイオマスボイラーなどを見学しました。また、真庭市の林業・木材産業の拠点

である森林組合、製材所、プレカット工場等の見学も行いました。

4日目は、銘建工業(株)のCLT専用工場や中国四国地方では初めてCLTを使用したホテル等を見学しました。研修生には、このホテルのCLTで建てられた棟（部屋）に交代で宿泊して、CLTの建物を実感して頂きました。

研修の最終日には、研修生がグループ毎に「各地における木材の利用拡大の事例や課題」について意見交換し、真庭市での研修を基に今後、木材産業の振興や木材利用の拡大を図るためにはどうすべきか検討・発表して頂きました。その後、国・県・市の担当者から木材の安定供給などに関するコメントを頂き、5日間の研修を終了しました。



銘建工業（株）のCLT専用工場の見学

研修生のアンケートには

○研修生は真庭市の木材利用をここまで進めた実例を目のあたりにでき、非常に参考になった。

○講師の皆さんのレベルが高くてとても良い研修だった。

○高尾での研修は講義が中心になるが、先進地の真庭市で研修することは新鮮で参考になった。

等のコメントが寄せられ、充実した研修となったようです。

また、研修初日と2日目には、地元のケーブルTVや新聞社が研修の様子を取材に来ており、地元における注目度の高さが感じられました。

最後に、この研修で講義をいただいた講師、見学地で説明をいただいた方々、また真庭市での研修の開催にあたり、準備など御協力いただいた岡山県、真庭市の方々に感謝申し上げます。



真庭シティホテルサンライズCLT棟に宿泊



※ 平成28年3月22日に、内閣府のまち・ひと・しごと創生本部で「政府関係機関移転基本方針」が決定され、森林技術総合研修所で実施している研修の一部について、平成28年度から山梨県、岐阜県、岡山県で実施することとなりました。

研修紹介 3

特 用 林 産 研 修

期 間：2017年2月13日（月）～17日（金）

受講者：20名（地方公共団体等職員）



栃木県 県西環境森林事務所 森林部 林業経営第一課 主査 大塚 寛子

「特用林産物には可能性がある！」私がこの研修で学んだことの一つです。日本の森林には、より多くの人に知ってもらいたい魅力がたくさんありました。

タケノコによる地域振興、薪生産の新たな担い手、炭の新用途開発、種菌メーカーによる生産者支援、飲食業界における山菜の需要拡大等、取り組まれている方の生き生きとした講義により、知識だけでなく仕事に向かう心意気も学ぶことが

できました。

農林業においては、生産者の高齢化や若い担い手の不足など課題は山積みですが、太陽が出て、雨が降り、健やかな大地があるからこそその悩みだと思えば、これからも前向きに課題に取り組んでいけると思います。

今回の研修で学んだ特用林産物の魅力を、普及指導業務の中で情報発信し、地域の活性化や森林保全に役立てていきたいと思えます。

お世話になりました講師の皆様、研修所の皆様、御縁のありました研修生の皆様、栃木県の皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。



しいたけの原木栽培



(株)富士種菌のほだ場でのしいたけ品種の説明



教務指導官 石垣 泰夫

本研修は、山村地域の重要な収入源である特用林産の振興に資するため、特用林産物の生産・流通、食の安全確保等に関する知識及び技術を習得することを目的として実施しました。

研修内容は、きのこ、竹、薪、炭、山菜についての知識、生産技術やこれらを活かした地域振興の取組について学んで頂くというものです。

現地見学では、山梨県森林総合研究所で県産きのこ栽培研究やカンゾウ、薬用ニンジンの栽培技術の研究状況を見学したり、きのこ種菌会社である富士種菌では、しいたけのほだ場や種菌工場の原木に植菌するオガ菌の加工を見学しました（当日は菌の侵入を防ぐため納豆は厳禁）。富士種菌の相場代表取締役の講義からは、しいたけの原木栽培への強い思いが伝わり、また、普段見ることがない栽培現場に研修生は興味津々で、熱心にメモしたり写真を撮ったりして、予定時間を超えてしまうほどでした。

グループ討議では、4班それぞれが課題を決めて、特用林産の振興に向けた対応策を討議、発表しましたが、討議では熱がこもり、取りまとめに苦労したようでした。

今後、本研修で習得した知識等を活かし、地域における特用林産の普及に活躍されることを期待しています。



(株)富士種菌の種菌工場（オガ菌）



KJ法を活用したグループ討議



討議の結果を班ごとに発表



研修紹介 4

情報処理（森林GIS技術者養成）研修

期 間：2017年2月1日（水）～3日（金）

受講者：14名（国有林野事業職員）



東北森林管理局企画調整課林政推進係 藤田 裕史

私は、まだ業務で国有林GISを使用する機会はありませんが、地理空間情報やICTの活用は重要度が増しており、今後のためにぜひ学びたいと思い受講しました。

研修では、国有林GISの基本操作から、平成29年度に追加予定の新機能までを丁寧に教えていただきました。平成29年度は、民有林との一体的施業を後押しする機能も追加されるなど、国有林GISを活用した民国連携に向けてシステムが徐々に整備されていると感じました。また、民有林における森林GISや航空レーザー測量等の現状と課題について、長野県の担当者の方より直接お話を伺うことができ、視野が広がり有意義な時間となりました。

今後は、私自身が、目的をしっかりと持ちつつ国有林GISを積極的に活用し、よりよい森林GISのあり方について考えることができると思います。講師の皆様、研修所職員の皆様をはじめ、お世話になった皆様に感謝申し上げます。



パソコンを活用した森林GISの操作演習



教務指導官 近藤 正彦

林野庁では、国有林独自の地理情報システムとして国有林地理情報システム（以下、国有林GIS）を運用しており、このシステムには、路網設計、GPS連携、測量成果、写真管理など、森林管理局署や事務所など現場に必要とされる機能が搭載されています。本研修は、森林GISを効果的に活用できる技術者の育成を目的に、全国の森林管理局署から10名の研修生が集まって、2月1日（水）から3日間の日程で行いました。

研修内容は、パソコンによる国有林GISの基本的な操作や今年度改修の新機能、情報管理の重要性の再認識のための情報セキュリティなどの講義・演習となっています。また、森林GISの活用を考えるヒントとして、長野県における森林GISの活用事例や国有林GIS民国連携サブシステムの活用についての講義も行われました。

研修生からは、今回の研修で普段使っていない機能を知ることができ、より活用できそうとの意見も出ました。また、国有林、民有林の双方が効率的に業務運営するためには、民国連携の推進が重要であると実感していました。



長野県職員による森林GIS活用の紹介

受講された研修生の皆さんが、研修で学んだことに加え、自らインターネット等による情報収集や、職場や県市町村職員等との意見交換から、新たな活用方法を見つけ出し、活躍されることを期待しています。

研修紹介 5

・高性能林業機械（安全指導・後期）研修 ・森林管理局への講師派遣

林業機械化センター所長 青山 一郎



中野厚生労働省技術審査官による講義

高性能林業機械（安全指導・後期）研修

期 間：2017年1月16日（月）～17日（火）

2017年1月23日（月）～24日（火）

平成25年の労働安全衛生規則の改正をうけて始まった本研修も3年目となりました。実技科目を中心とした前期研修を秋に行い、学科科目主体の後期研修を冬季に行うスタイルは従来通りです。今回の後期研修2コースは1月に林野庁において行いました。

特別教育に係る学科教育の他、各地で指導・監督にあたる研修生の見識が深まるよう、中央で関係業務を司る岡井林業労働対策室長、中野厚生労働省技術審査官及び制度改正当時の検討会の座長を務めた広部博士に車両系木材伐出機械等の安全衛生特別教育が義務化された背景等についてご講義いただきました。

最後に講師の方々が研修生の疑問に答える形でディスカッションを行い2日間の研修を終了しました。研修生からは「大変有意義な研修だった。」「これまで釈然としなかった疑問がよく理解できた。」等のコメントが寄せられました。



講師とのディスカッションを通じた情報の共有

森林管理局への講師派遣

（近畿中国森林管理局・チェーンソー研修）

期 間：2017年2月14日（火）～16日（木）



チェーンソーの構造を解説

安全な伐木造材等の指導・監督、民有林への森林整備支援のために必要な技術力の向上を目的として、平成26年度からの2年間、林業機械化センターが各森林管理局に出向く「局別出張研修」を行いました。平成28年度には同様の研修に独自に取り組む近畿中国森林管理局からの依頼に応じて講師派遣を行いました。

2月14日から16日の3日間、岡山県新見市の森林技術・支援セン

ター及び岡山森林管理署管内の国有林において、伐木作業、チェーンソーの構造・操作方法・点検整備、振動障害とその予防、関係法令等についての講義と実習の講師を務めました。特に、災害発生の多い「かかり木」の安全な処理方法や防護衣と作業着の鋸断、ソーチェーンの目立ての違いによる切れ味や振動の違い等については、実際に体験したことで、研修生の今後の請負事業体の指導監督に役立つものと考えます。

受講者の皆様がそれぞれの現場において、研修で学んだことを実践し、自信をもって安全指導等を行っていただくことを期待しています。



安全は基本が第一、まずは伐倒方向の確認

間伐材製品を導入

研修所では、木材の利用拡大と、快適な研修生活が過ごせるよう、ヒノキ間伐材を加工した研修生用机や事務机など国産材を使った木目の美しい机を導入しました。今後も、庁舎内の木質化と併せよりよい研修環境の整備に努めて参ります。



研修生用の間伐材机（第2教室）



地域材を使用した事務机



人

事

異

動

■退職（自己都合）（2月28日付け）

印牧 馨（経営研修課行政専門員）

■退職（定年退職）（3月31日付け）

佐藤 隆幸（首席教務指導官）

北村 昌三（教務指導官）

菊池 睦子（総務課会計係長）

■退職（雇用期間満了）（3月31日付け）

高澤 敦子（林業機械化センター機械化研修係臨時的任用職員）

■転出（平成29年4月1日付け）

林野庁森林整備部研究指導課課長補佐（保護企画班担当）志磨 克（技術研修課長）

林野庁国有林野部管理課災害補償専門官 田村 稔（経営研修課研修企画官）

農林水産省食料産業局バイオマス循環資源課課長補佐（バイオ燃料班担当）久保 武典（経営研修課研修企画官）

関東森林管理局下越森林管理署村上支署長 高木 敏（総務課長）

■転入（4月1日付け）

首席教務指導官 枝澤 修（林野庁林政部林政課監査官）

教務指導官 中熊 靖（農林水産省食料産業局食品製造課課長補佐（林産物規格班担当）

教務指導官 東 睦弘（近畿中国森林管理局福井森林管理署次長）

技術研修課長 田端 朗子（環境省自然環境局自然環境計画課生物多様性地球戦略企画室室長補佐）

経営研修課研修企画官 堂蘭 理一郎（近畿中国森林管理局広島森林管理署地域林政調整官）

技術研修課研修企画官 丸橋 宗寿（環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課主査）

総務課会計係長 関谷 麻美（林野庁国有林野部管理課）

■内部移動（4月1日付け）

総務課長 小倉 和幸（教務指導官）

経営研修課研修企画官 佐藤 睦（技術研修課研修企画官）

■再任用短時間勤務職員（4月1日付け）

総務課行政専門員 菊池 睦子（総務課会計係長（平成28年度退職者））

■任期付採用職員（4月1日付け）

総務課会計係 服部 友美

■臨時的任用職員（4月1日付け）

経営研修課 前田 大輔



森林技術総合研修所 http://www.rinya.maff.go.jp/j/kensyuu/kensyuuu_zyo.html

〒193-8570 東京都八王子市廿里町(とどりまち)1833番地94

TEL 総務課：042-661-7121 / 教務指導官室：042-661-3560

技術研修課：042-661-3565 / 経営研修課：042-661-3567

FAX 042-661-7314

林業機械化センター http://www.rinya.maff.go.jp/j/kikai/kikai_ka_senta.html

〒378-0312 群馬県沼田市利根町根利1445 TEL 0278-54-8332 FAX 0278-54-8280